

## 1 評価結果から

## (1) 本年度の重点努力目標について

「生徒のあらゆる可能性を広げ、新たな一步を踏み出す学校づくり」を重点努力目標として取り組みました。生徒が可能性を広げる場面、自主性を育む時間を学校生活のさまざまな場面で作り出せるよう、教育活動にあたってきました。「多様な考え方やアイデアを積極的に生み出すことができる地盤」「他者のために自らの責任を果たしていこうとする意識の向上」「自らの手でよりよい学校生活を構築していく生徒集団」を期待する具体的な姿としてとらえ、実践にあたってきました。

## ○ 重点努力目標関係アンケート項目

**Q7「他者を助けたり、協力したりできたか」****Q15「係や委員会活動など人のためになる活動に進んで取り組めたか」****Q19「重点努力目標に取り組んでいたか」 Q20「本年度の取組で成長したか（見られたか）」**

- ・Q7では、肯定的な回答をした生徒が94%、教師は93%となり、前年度に比べ増加した。また、Q15の「係や委員会活動など人のためになる活動に進んで取り組んだ」と回答した生徒の割合も、96%と高い。

→ほとんどの生徒が、決まっている自分の役割に対し、責任をもって取り組むことができる。また、周囲の様子を見て、困っている人に積極的に協力しようとする生徒が多数であることも確認できた。実際に地域の方から、困っている人に声をかけたり、協力したりしている中学生を見たというお褒めのご連絡をいただく機会が何度かあった。そういった活動を集会などで伝え、少しの勇気がよりよい学校生活や社会生活につながることを今後も広めていきたい。

- ・重点努力目標に係るQ19, 20では、今年度も学校に楽しく通えていると回答した生徒が9割を超え、蟹江中学校での学びの中で成長したと回答する生徒も9割を超えた。

→職業調べから始まる3年間を見通した「キャリア教育」や、自分を見つめ、他者との関わり方を考える「思春期講座」など、学校では一年を通し、子どもたちの成長を目指して、発達段階に応じた取組を継続して行っている。また、「やればできる」ことを実感するための学力コンクールや級友の新たなよさを発見し感謝を伝え合う取組など、毎日の生活の中で自己肯定感を高める取組を子どもたちと共に考えながら実践してきた。このような取組が、学校に来る楽しさにつながり、自身の成長を感じることに繋がったと考える。

ただ、楽しく通えていない、成長を実感できない、と感じる生徒と保護者が1割程度いることも分かった。一人一人の思いに寄り添い、小さな成長を積み重ねること、その成長を実感できるような関わりを、生徒と教員、生徒同士がもてるような場づくりを進めていく必要がある。

## (2) 肯定的な回答が多かった項目

**Q4「人の話を真剣に聞く」**

生徒97%、保護者85%、教員93%という高い割合で肯定的な回答が得られた。

→学年や全校での集会では、ほとんどの生徒が話している人の顔を見て、真剣に話を聞く様子が見え、この姿勢を一人一人がもつことで、現在の蟹江中学校の落ち着いた雰囲気醸成につながっている。

**Q10「交通ルール、マナー順守」**

生徒は98%、保護者は94%が肯定的な回答をした。しかし、教員の肯定的な回答が73%と低い結果となった。

→今年度、地域の方から本校生徒が地域に貢献する姿を称賛するご連絡をいただくことが複数あった。しかし、登下校中にヘルメットをかぶらなかつたり自転車で横3列になって通行したりする様子に安全面での心配をいただく声を多数いただいた。また、公園や商業施設の利用状況が、周囲の方のご迷惑になっているというご連絡も複数回いただいた。これらのことが、教員の肯定的な回答の低下につながったと考える。改めて、公共のマナーやルールを守ることが自分自

身だけでなく、周りの人の安心安全につながることを考える場を設定し、公共マナーの遵守につなげたい。

#### Q14「学校行事、授業への取組」 Q16「学校は安心・安全で学べる場か」

どちらも昨年度に引き続き、三者とも高い評価となった。

→すべての生徒にとって、学校がよりよい成長の場となるよう今後も努力を継続する。

### (3) 否定的な意見が多かった項目

#### Q6「情報機器の使用時間、情報モラルの順守」

生徒の91%が意識して生活していると回答しているが、保護者の肯定的な回答は、6割と低い。また、昨年度に比べ、保護者の否定的な意見は1割増加した。

→学校では、情報モラル教育として、日常の注意喚起に加え、愛知県警や蟹江警察、クローバーTVの方など外部機関の講師を招いてSNSの利用について定期的に考える機会を設けている。しかし、生徒の中からSNS利用に関する相談を受けることが多い。情報機器を持たせる際の約束や管理について、今一度各家庭で話し合っていただく重要性を伝えつつ、学校と家庭が協力して「被害者にも加害者にもならない」生徒の育成に努めたい。

#### Q12「予復習、自主学習の取組」

生徒78%、保護者63%、教員70%が肯定的な回答をした。

→本年度も低い評価となった。授業への取組(Q11)では生徒と教員の9割が肯定的な回答をしているが、授業での取組が、家庭での自主的な学びにはつながっていない。「何のために学ぶのか」日々の授業やキャリア教育だけでなく、家庭に帰ってからの生活の中で、将来の夢や目標を見出し、自らの意思で学ぶ意欲を高めていく必要がある。

## 2 保護者からのご意見

(1) Q6「情報機器の利用において、使用時間の管理や情報モラルの順守を意識した生活」のためにご家庭で取り組んでみえること、試してみてよかったことなどについて

- 携帯を触り始めてしまうと、時間管理ができなくなってしまうので、帰宅後親が携帯を預かっており、やるべきことをやったあとに渡すようにしている。
- 寝るときにはリビングにスマホを置いておき、寝室に持っていかないこと。あんしんフィルターをかけて、不要なアプリを入れないようにさせること。
- SNSアプリの取得制限。アプリを取得するときには親に確認する事を約束しています。また、SNSの危険性についてデジタルタトゥー、炎上など、SNS上での発言は気をつけることを伝えています。
- 情報機器（携帯電話）の使用はなるべく親の目が届く場所で使用する。
- 夜22時以降は、緊急時以外は利用をしないように就寝する部屋には持っていかないようにしています。この方法が適切かどうかはわかりませんが、スマホ利用による寝不足、夜更かしは避けられていると思います。
- 上の子が高校の説明会で「スマートフォン等の利用に関する啓発活動へのご協力のおかげ」をもらってきました。「午後10時から朝6時まで書き込み等しない」と言うもので、教頭先生から親子に対しお話もありました。帰宅してから、子どもに「自分が選んだ高校だから、高校から言われているルールは守らないといけないよ」という話をするきっかけになりました。入学する最初の時期にお手紙をいただいたこと、具体的な数字が入っていたことがよかったと思います。親からだけの話だと聞き流されてしまうことも多々…。でも、高校からも言ってくれてよかったなと思ったことを覚えています。
- 我が家は、スマホの利用時間、利用場所のルールは一応決めています。時間は6時から22時まで、リビングのみです（時々守りませんが）。少し厳しいかなと思いますが、今のところ変更する予定はありません。また、ゲームとインスタ、YouTube等も入れていません。LINEと英単語アプリ、音楽アプリのみです。子どものスマホは、ネットにもつながらない設定です。いずれは、スマホもネットの情報も上手に使えるようになってほしいですが、いつ、どのタイミングでルールを緩和すればいいかというのは、手探り状態です。

(2) Q20「本年度の蟹江中学校での学びを通じた成長」について、子どもたちの成長のきっかけとなったと感じられる取組や行事、反対に成長につながらなかったと感じられる取組や行事（改善策など）について

○子どもたちの成長を感じられる行事は体育祭です。学年を超えたブロックごとの競技、ブロック演技は、年々子どもの成長、かっこよさを実感します。文化祭の合唱も普段見ることのできない子どもの表現、表情を改めてみることができる機会でした。

○体育祭で子ども達が全力で取り組む姿が印象的でした。特に、負けたクラスの生徒が涙を流して悔しがっている姿は「そこまで真剣に取り組んでいたんだな」と感じさせるものでした。また、文化祭を拝見することができませんでしたが、「午後からの自由な出し物がすごくよかった」という話を多くの人から聞きました。

「やりたいことを思いっきりやっても恥ずかしくない！」という環境が、子供の成長につながるのではないかと感じました。

○成長につながったのは、体育祭と文化祭。先生方、いつもありがとうございます。

○行事、取組に対しての反対意見はないです。

(3) その他

○全く別件なので恐縮ですが、校内で履いているスリッパは今後変わる予定はありますか？地震が来ると言われている昨今、かかとのある履物の方が生徒さんの安全を守ることができると思うので、スリッパでの生活が心配です。また、防災ヘルメットなどもあるといいのではと思います。(学校裁量では難しいと思いますが、何かの折に議題に挙げていただけるとありがたいです。)

→貴重なご意見ありがとうございます。いつ起こるか分からない災害のことですので、蟹江町教育委員会と相談しながら検討していきます。